



2月の2週間が経ちましたが、色々なことが目白押し!!

2月がスタートしてたった2週間授業日数は9日間でしたが、色々なこと行事や出来事があり、1日があっという間に過ぎていきます。子どもたちにはいろいろな経験を通して少しずつ成長して欲しいです。

◆2/2～4「教員採用前体験」

この4月に先生として採用される先生が、学校業務はどのようなものか、子どもたちと接する経験を採用前にしっかりとイメージして心構えができるように始まった制度で、3日間吉井先生が学園小学校に来てくれました。たった3日間でしたが子どもたちと一緒に学習したり、休み時間を過ごしたりと笑顔で過ごしてくれました。

◆2/3「6年生薬物乱用防止教室」

毎年、講師に来ていただき、薬のこと、お酒やたばこのことなどの様々なことを学びました。体に悪い影響があるにもかかわらず薬物に頼ってしまうストレスの話など、とても分かりやすくお話していただきました。



◆2/4「入学説明会」

来年度入学してくる子どもたちを5年生と1年生で迎えて、一緒に過ごしました。5年生は最高学年への気持ちを改めて感じていました。1年生は1年間の成長を披露する機会と年下の子どもたちとの交流で、とても元気にそしていつもよりも丁寧に新入生に接してくれました。



◆2/4「3年生 ジャムづくり」

3年生は1学期にお世話になった「ながしお農園」さんを講師に迎え、イチゴジャムづくりを体験しました。イチゴを煮込んでいくと甘いイチゴの香りが部屋中に広がり、給食のパンにつけて食べました。自分で作ったジャムはとっても美味しかったようです。1/30には蓬萊牧場にも行きました。



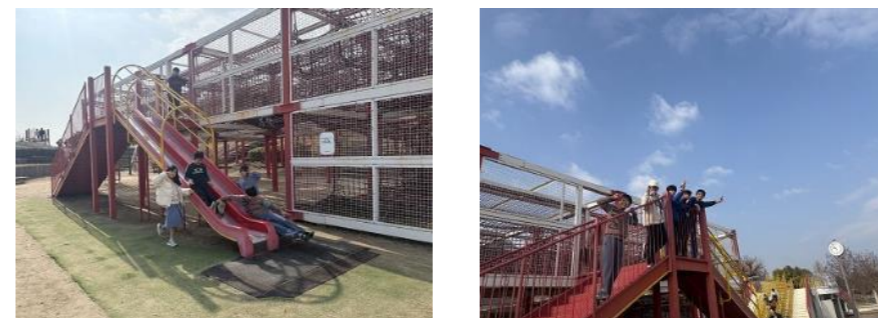
◆2/9 大雪におおはしゃぎ!

2/8 から降り続いた雪は、警報が出るほどの大雪となりました。グラウンドも10cmほどの積雪で、朝から子どもたちは雪だるまをつくったり、雪合戦をしたりと年に1度の大雪に笑顔がいっぱいでした。

◆2/12「5年生校外学習」

5年生の校外学習は、インフルエンザによる学級閉鎖のため2回も校外学習を延期しました。それでも「5年生のみんなのために!!」と担任の先生が実行してくれました。伊丹のスカイパーク、朝日新聞社、手塚治虫記念館と盛りだくさんの体験学習を行ってきました。

※右の新聞は、朝日新聞社で作ってもらった新聞です。



◆2/13「参観日・学級集会」

本年度最後の授業参観日。1年間の成長と学習の成果を保護者の皆さんへ披露することができました。



◆2/16「ありがとう朝会」

登下校の見守りや器楽・ミシンボランティア、お花、PTA活動などお世話になっている地域・保護者の方に「ありがとう!」と感謝の気持ちを伝える朝会がありました。お世話になった方全員ではありませんでしたが、みんなの感謝の気持ちをいっぱい詰め込んだお手紙を渡すことができました。今年度も子どもたちを支えていただき、本当にありがとうございました。



◆ポプラの木を伐採しました。

学校の東側に大きなポプラの木がありました。長い間、学園小学校の子どもたちを見守ってくれていたポプラの木でしたが、だいぶ民家の方へ傾いていたため、伐採することになりました。

また、運動場のフェンス外側の木々についても剪定などを行いました。校舎が木造だけに木々に囲まれている学園小学校ですが、34年の歳月で木々も大きく育ちました。運動場で体育や休み時間に子どもたちの声を聞きながら育った木々ですが、多くの枯れ葉が地域の方々へご迷惑をかけることにもなりました。



「結果」も大切だけど… 校長の独り言

みなさん、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックをご覧になっていますか？

多くの日本人選手が様々な冬のスポーツ・競技に参加しています。そして毎日「金・銀・銅メダル」を誰が獲得したかと報道が流れています。今の世界一を決める大会は、見ている私たちも胸おどる素晴らしいパフォーマンスを見せてくれます。この**スポーツ・競技は、国籍や言語、宗教など全く関係なく、決められたルールの中で行われる**ため、日本人はもちろん他の国の選手であっても、見ている私たちは「感動」するものです。特にメダルを獲得した時の映像を盛り上げるアナウンサーの「○○選手、○メダラー!!!」と叫ばれると、自然と胸が熱くなるのは私だけでしょうか。まだまだ続くミラノ・コルティナ冬季オリンピック。出場選手の素晴らしいパフォーマンスに期待したいですね。

そのような盛り上がりがある一方で、出場選手に対する誹謗中傷が後を絶ちません。その中には国籍や言語、宗教、見た目（容姿）や振る舞いなどスポーツとは無縁のことに対してのものがあ、残念としか言いようがありません。

特に残念なのが、メダルをあと少しで獲れなかった…成績が低かった…選手への誹謗中傷です。確か

にメダルが獲れなかったのはとっても残念で、それは人一倍選手本人が感じているはずです。また、成績が低くても、「世界一を決める『オリンピック』」という大会に日本代表として出場しているのです。そのような人たちになぜひどい言葉を言えるのでしょうか。

以前、私が副顧問をしていた柔道部の顧問の先生は、「**日本一の選手は、日本で一番練習をしている。日本一になりたかったら、自分は日本で一番練習しているって思うぐらい練習をしろ!**」と言っていました。その時の生徒は、朝7:30から夜10時まで毎日練習をしていました。横で見ているだけでもしんどくなる練習を続け、本当に日本一になりましたが、それほど**過酷で大変な練習を積み重ねてきて日本代表になった**人たちにどうして賞賛やねぎらいの言葉を言えないのでしょうか。

メダルという「結果」が出なければダメなのでしょうか？

「**一念通天(いちねんつうてん)**」という言葉があります。これは強い**決意**を持って**努力**し続ければ、必ず成し遂げられるという意味で、**過程(プロセス)**を評価する言葉です。出場している選手は「メダルを獲得」や「自己ベストを出す」、「記録を出す」という強い**決意**をもって、これまで毎日トレーニングや大会に参加して、このオリンピックに出場したはず。メダルという結果に結びつかなくても、自分の思いを成し遂げられなくても、これまでやってきた**努力**は絶対にムダではないはずです。

スキージャンプの高梨沙羅選手は4年前スーツの違反で失格となり、涙をのみました。その後引退まで考えたそうですが、それでも涙をこらえ、歯を食いしばって今回のオリンピックにもどってきました。そして念願の銅メダルを獲得し、涙を流していました。あの涙にはこの4年間の**強い決意と努力(過程)**を感じさせるものだと言われ、彼女の姿を見て涙しました。

「過程を大切に」というのはオリンピックのような大舞台だけのものではありません。日常生活の中にも、そして子育て・教育で重んじているところです。子どもたちはなんでもできるわけではなく、少しずつ少しずつ、失敗や間違っ**た選択を繰り返し、繰り返しして成長していきます。何が良かったのか？何が悪かったのか？という経験を積むことで、目指すところへ近づいていくのです。また誰しもが目標を達成する訳ではありません。だからこそ学校教育では「過程」を大切にしています。**

以前から文部科学省は「主体的・対話的で深い学び」を掲げていました。この「主体的・対話的で深い学び」は、目標に向かって自ら取り組み、他者と議論し、学びを深めていく…というまさしく**「過程」**に大切にしたい子どもたちの育成を目指しているのです。



テストの点が良かったから「良い」のか、悪かったから「ダメ」なのか…「結果」だけを見て判断して良いのでしょうか？普段、勉強をしていないのにたまたまチラッと見た所がテストに出て良い点を取った。体調が悪くて実力を発揮できなかった。いろいろな理由、過程があるはず。結果だけで判断してしまうと**子どもたちの「やる気」をなくすことになったり、「自分を見てくれてない…」と思ってしまうことになります。**

3学期末に「あゆみ」をお渡しします。短い3学期の評価ですが、どうか結果だけの評価ではなく、1年間の成長や過程、次の学年に向けての取り組みなどについて、「**言葉にして評価**」していただければありがたいです。

「千里の道も一歩から」「ローマは一日にして成らず」何かを成し遂げるために「過程」を大切にできる子どもたちになってほしいですね。